

2010年1月8日

大阪産業大学附属高等学校

平成20年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校
学校関係者評価WG

評価と提言

1, 平成20年度授業アンケートおよび学校教育自己評価について

教科担当者ごとに行った授業アンケートの結果は、本校生徒が「授業をどのようにとらえているのか」をよく表しているものになっていると判断できます。教科担当者ごとのアンケート結果を担当者本人へ返すことにより、教員自身の研鑽の糧となるものと判断しています。但し、授業アンケートだけでは生徒の感想に終わることもあり得るため、公開授業などを行っていただき、学校評価関係者(保護者、大阪産業大学教授)からの意見を聞くなど情報交換を行うことが有意義であると思われる。

2, 学校教育への提言

A, 近隣地域住民からの提言

近年、登下校のマナーには一定の改善が見られたが、今後とも、自転車通学者へ歩行者との接触事故が起こらないように注意を喚起すること、下校時に集団で歩道を歩かないなどの教員による指導を求められた。

評価できる取り組みとして、近隣住民へのグラウンドの貸与、地域ボランティアとして清掃活動、保育補助などを行っていることが評価された。

B, 保護者からの提言

クラブ活動の活性化への取り組み、大学進学など進路指導、イジメ防止のための人権教育および生徒指導は評価できる。

早期に大学進学が決定するが、進学決定後の学習および生活指導が不十分ではないかと思える。

C, 大阪産業大学関係者からの提言

授業評価からも伺える「予習・復習の不足」が大学入学後の学習不足から留年する学生が増加していることを指摘された。高校で基本的な学習習慣を定着させるよう求める。